

# 観光振興と交通による江差の 活性化とまちづくりの推進

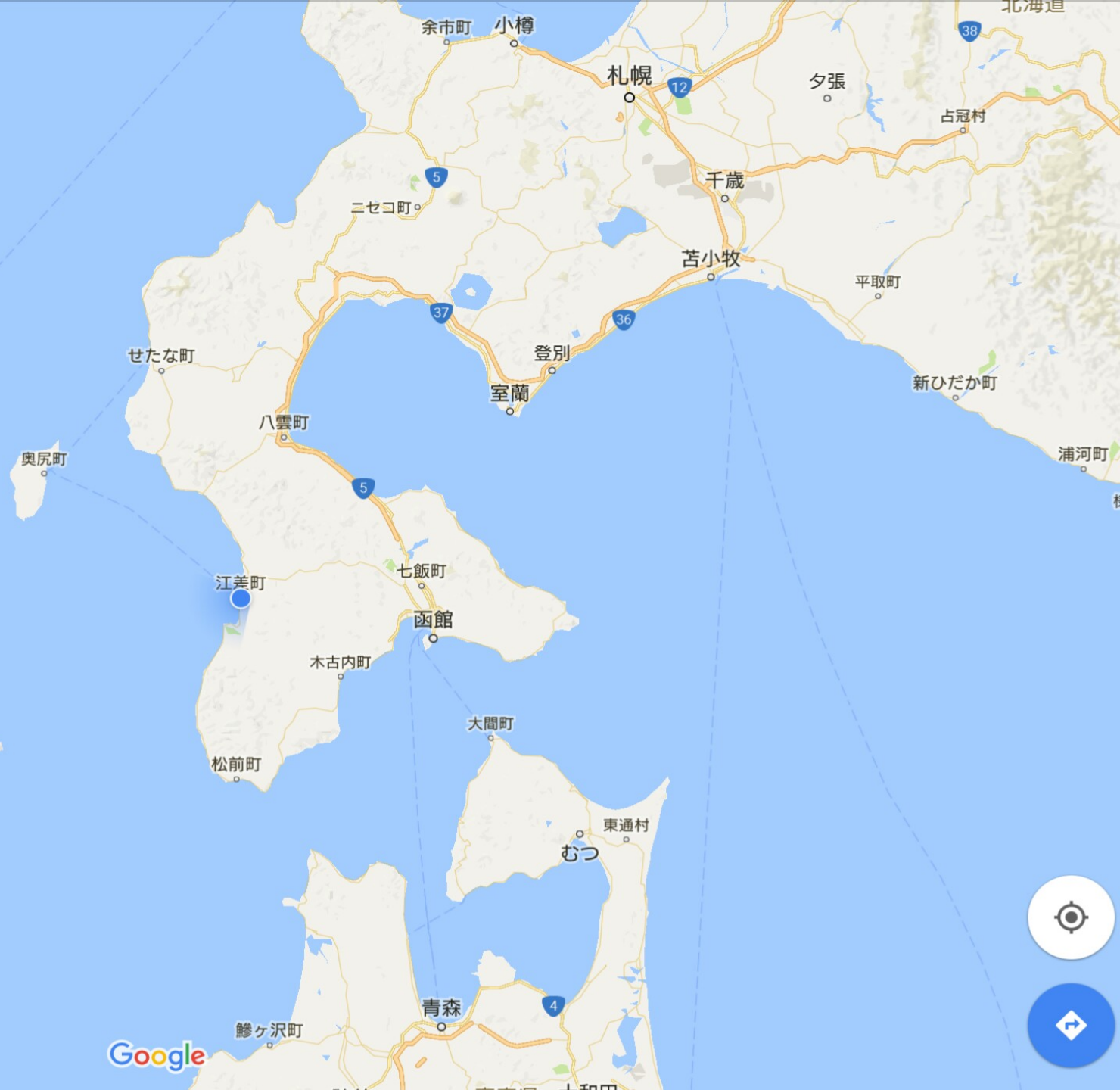
2017年3月14日 東京大学公共政策大学院

北海道江差町 照井誉之介





ここで検索できます



# 江差町は...

- 人口：8066人（2017年1月末現在）
- 面積：109.53平方キロメートル
- 江戸時代、ニシン漁と北前船による交易で開けた町
- 民謡「江差追分」や北海道最古の祭りなどがある文化の町
- 現在は農業、漁業の第1次産業を基盤とし、商工業や福祉事業所などがある
- 特産品はイカ、ナマコ、紅ズワイガニ  
米、ジャガイモ、アスパラガス



# 照井誉之介は...

- 1984年、東京生まれ、神奈川育ち
- 2003年、私立明治学院高校(東京)卒業
- 2008年、早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
- 同年、北海道新聞社入社、本社編集本部、江差支局、帯広支社で勤務。2014年4月に江差町長選挙出馬のため退社
- 2014年8月から江差町長、現在1期3年目

# まちづくりの方針は...

- 「江差が活性化できないならば日本中どこも活性化しない」それくらい魅力的な町だと感じた。魅力がある半面、課題も多い
- 「よそ者」「若者」だという視点を忘れず、江差の魅力を発信し、課題解決に積極的に挑戦
- キャッチフレーズは「古くて新しいまち江差」



歴史や文化を生かしつつも、若い世代(40代以下)が定住しやすく、住んでいて楽しいと思えるようなまちづくり

# 公共交通の現状は...

- 2014年5月、JR江差線木古内一江差間(42キロ)が廃線  
⇒ 鉄路のない町に
- 同区間では、沿線自治体3町で代替バスを運行。費用をJR北海道が負担。約15年分の費用を拠出。その後は自治体負担の見込み
- 廃線にあたり、住民の反発は特になかった。

But 廃線は「地方衰退の象徴」

- 函館駅一江差間は民間路線バスが運行。毎日5往復。約2時間。
- 奥尻島行きのフェリーが夏季で1日2往復、冬季は1往復運航。
- 高規格幹線道路「函館江差自動車道」は途中の木古内ICまで2019年度の開通予定、木古内一江差間はいまだ事業未着手

# 北海道新幹線の開業で...

- 2016年3月、北海道新幹線開業。東京まで最短4時間2分
- 北海道の新幹線駅は2つ。  
終着駅の新函館北斗駅と木古内駅

両駅から江差まで約40キロ、車で1時間

(ちなみに函館空港からは車で2時間。路線バスは乗り継ぎ)

両駅から江差までの間、路線バスも運行している。



# 北海道新幹線の開業で...

- 観光客数(4~9月の上半期)

2015年	31万2936人	うち北海道外	(通年)14万8786人
	↓4%増		↓49%増

2016年	32万6435人	うち北海道外	(上半期)22万2049人
-------	----------	--------	---------------

北海道新幹線の開業で観光客数は微増だが、道外客がかなりの伸び率。半面、道内客は伸び悩み。

# 観光振興の意義は...

- 江差町内の各種産業の衰退に歯止めをかけるため、江差町外からの「外貨」を稼ぎ、各種産業を補完する役割
- ただ単に観光客の人数を増やすのではなく、いかに多く経済行為をおこなってもらうかが重要

# 観光振興の課題は...

- 宿泊施設の少なさ

函館近郊は慢性的に宿泊施設が足りていない。江差は宿泊施設の廃業が続く

- 発信力の弱さ

江差の知名度の不足、魅力が正しく伝わっていない

# 宿泊施設への対策

## ＜既存の宿泊施設に対して＞

- 2015年度に、既存の旅館やホテルにたいして改修費の一部補助  
2015、16年度の2ヶ年で延べ9件に約900万円を補助

## ＜新規宿泊施設の誘致に対して＞

- 2016年度に、宿泊施設建設費用の1／2(最高1億円)を支援する「まちづくり推進交付金」制度を創設

# 魅力の発信向上のために...

①NPO「日本で最も美しい村連合」への加盟

②「北の江の島構想」

③「日本遺産」への申請

# 「日本で最も美しい村」への加盟

- 失ったら二度と取り戻せない日本の農産漁村の景観や環境、文化を守り、地域資源を生かしながら自立を目指す運動。
- 条件は人口が1万人以下で、2つ以上の運動に合った地域資源があることなど。
- 2005年に設立され、現在全国の64自治体が加盟。江差町は2015年度に加盟。地域資源として、①全国組織を持つ民謡の江差追分、②北海道最古の祭り「姥神(うばがみ)大神宮渡御祭」、③古い町並みを再現した約1.2キロの「いにしえ街道」

# 「北の江の島構想」

- 江差町には天然の島「かもめ島」がある。江差のシンボル。
- 江差港マリーナがあり、マリンスポーツを楽しめる環境。
- 道の駅の港版「海の駅」に指定
- 「北の江の島」として発信し、全国にPR
- 町民からは「なんで江の島なんだ」「他地域の真似事はすべきじゃない」との批判もあるが、注目を集めるためのキャッチフレーズとして採用。
- 観光客誘致の拠点化に向けた整備を計画。2017年度中に計画を策定し約10年間かけて整備を実施。

江差町が「北の江の島構想」策定を目指す、かもめ島や江差港マリーナ周辺

# 江差町が構想素案



【江差】町は観光名所で、町のシンボルのかもめ島周辺を観光客や町民が集う拠点にして活性化を図る「北の江の島構想」の整備計画などを盛り込んだ素案をまとめた。マリンスポーツ交流センターの整備や道の駅設置、高齢者に配慮したかもめ島へのアクセス改善などで魅力向上を図る。新年度に構想を策定する。整備計画案に盛り込んだ検討項目として、かもめ島の前にある江差港マリーナを活用し、江差マリンスポーツ交流センター(仮称)の整備、マリンレジャ

# かもめ島北の江の島に

## 海洋スポーツセンター整備、道の駅指定も

ーに対応するマリンスポーツ推進員を配置する。観光客の大半が訪れる開陽丸記念館の管理棟改修計画を策定し、道の駅指定を目指す。また、観光などでかもめ島を訪れる高齢者らに配慮し、島上にアクセスしやすくするため昇降設備の整備を図る。空き店舗になっている島上の旧花月跡地の整備は所有者と協議し、民間事業者による跡地活用などを検討する。このほかドッグランやキャンプ場の利活用も図るとした。

町は町民や各団体と意見交換を重ね、新年度の構想策定を目指すとしており「古い歴史と新たな魅力を融合する新たな拠点にし、交流人口の増加につなげたい」と説明している。

北の江の島構想は、横浜市出身の照井晋之介町長が江の島(神奈川県藤沢市)のように町内外から人が集まる拠点を目指して発案した。第1弾のイベントとして昨年7月、町民や観光客がマリンスポーツに親しむ機会にしてみらおうと江差港マリーナで「えさしマリンフェスタ」を初めて開いた。(藤本陽介)

# 渡島 檜山

- 森支局 ☎01374・2・2
- 森町清澄田
- 八雲支局 ☎0137・62・2
- 八雲町富士見町
- 木古内支局 ☎01392・2・2
- 木古内町本町
- 江差支局 ☎0139・52・0
- 江差町姥神町
- せたな支局 ☎0137・84・5
- せたな町北檜山区徳島
- 印刷工場見学受け付け
- 北斗市 ☎0138・84・5



# 「日本遺産」への認定を目指して...

- 文化庁が地域を指定する「日本遺産」申請中。2020年の東京オリンピックパラリンピックまでに全国100箇所が指定される見込み。申請の際には地域の魅力を発信するストーリーが必要。
- これまで37件が認定されており、北海道にはまだない。
- ストーリーは「江差の五月は江戸にもない  
ーニシンによる繁栄が息づく町」

外国人観光客へのアプローチも視野。アイヌ文化との交流を促進中。

# 江差町海外PR強化へ

## 外国人客 檜山に呼び込め

【江差】全国的に増加する訪日外国人客（インバウンド）を取り込もうと、江差町は新年度、海外での観光PR活動の実施を検討する。道南では函館、大沼など渡島管内が外国人に人気だが、檜山は海外での知名度が低く、来訪客はごく少数。行政、民間とも積極的な取り組みはまだ少ないが、同町の取り組みが呼び水となるか注目される。

（後藤真）

「江差の観光活性化には積極的に国外に出てPRすることが大事だ」。2月27日、同町の新年度予算案を発表した照井誉之介町長はこう述べ、外国人向けに地域の魅力をPRする文化庁の「日本遺産」認定を受けた場合、台湾または欧米のいずれかの国を訪れ、観光プロモーションを行うことを検討していることを明らかにした。今後、訪問先や訪問団の構成を詰め、実施が決まれば費用は補正予算で対応する考えだ。

江差追分や「開陽丸」など歴史ある文化・観光資源に恵まれた江差町だが、外国人客は少ない。宿泊施設の少なさともあり、檜山振興局によると昨年4～9月、管内に宿泊した外国人は250人。渡島管内の約19万人とは大きな差がある。

江差追分会館の本年度（1月末時点）の外国人入館者は128人。日本人を含めた入館者総数の0・7%に過ぎず、北海道新幹線の開業があっても昨年度の109人とほぼ変わらない。町内のホテルニューえさしは新幹線開業後、稼働率は10%ほど上がったが、増えたのは日本人客だけ。八



英語や中国語の表記が加えられた江差追分会館前の観光案内板。外国人の誘客へ、積極的な取り組みが求められている

## 歴史や文化 地域の魅力 売り込み方カギ

十科聡社長は「外国人も増える」と期待したが変化がない」と表情はさえない。

課題は海外での知名度の低さだ。中国・台湾人向けの旅行サイトや雑誌に「檜山の観光情報はほとんどなく、ツアーのコースにも組み込まれていない」（同局）。江差町は海外でのPRを通してこうした状況を少しでも打開したい考えだが、同局商工労働観光課は「外国人客は個人旅行が増えて、隠れた名所巡りを求める人も増えている。PR次第で劇的に外国人客が増える可能性がある」とみる。

誘客を目指し、檜山管内では受け入れ態勢の整備やPR強化が徐々にだが進んでいる。江差町は「日本遺産」の申請に加え、既に外国人のニーズの高い公衆無線LAN「WiFi-Fi（ワイファイ）」を町内15カ所に整備し、観光案内看板9カ所に英語や中国語の表記を加えた。上ノ国、厚沢部両町などでもWiFi-Fiの整備が進み、檜山振興局は2月、外国人スキー客が多い後志管内倶知安町のスパ1で檜山観光のパンフレットを配った。

北大観光学高等研究センターの石黒侑介准教授は「外国人客の道内各地への分散化はこれから本番。檜山の各町が広域的に連携して、強みである歴史や文化の魅力を売り込むべきだ」と指摘している。



やまが...  
地の木に縄をかけて首をつつて...  
の夫も、死の数カ月前から次第...  
に笑顔が消えていったそうだ。

# 結局、言いたいことは...

- 江差は北前船の交易で栄えたが、陸路の交通アクセスは悪い
- 2次交通対策も必要だが、まずは「遠い先」にどんな魅力があるか
- だからこそ、函館市のような都市化はせず、文化や日本的魅力が地域の中に息づいている
- これをいかにして外貨を稼ぐ仕組みに変えていくかが江差に問われている
- 北海道新幹線の開業を契機に「選ばれる地域」へ。

文化が  
残ってるんじゃない。  
生きているんだ。



祭りが  
EE。



# EE町、美 江、美。



えさし  
EE MACHI, ESASHI



歴史が  
EE。



美食が  
EE。

